

～ツルの仲間たち～

～カモの仲間たち～



バン (クイナ科)

全長約35cm。キジバトよりやや大きく全身はほぼ黒色。くちばしと額の色が赤く、くちばし先端が黄色。

クイナ (クイナ科)

全長約30cm。水辺の茂みに潜む神秘の鳥。非常に警戒心が強く夜行性のため姿を見ることは稀である。

キンクロハジロ (カモ科)

全長約45cm。頭が金属光沢の黒色で潜水上手なカモ。後頭部に垂れ下がった冠羽がある。

トモエガモ (カモ科)

全長約40cm。絶滅危惧種。顔に浮かぶ巴のような模様が特徴。日本では冬鳥として飛来するがその希少性と美しさから「幻のカモ」と称される。

～その他の鳥たち～



カワセミ (カワセミ科)

全長約17cm。「空飛ぶ宝石」とも称される水辺を代表する美しい鳥。富士見市の「市の鳥」として指定されている。



飛んでいる様子



泳いでいる様子

ユリカモメ (カモメ科)

全長約40cm。日本では冬鳥としてよく見られる。東京都の「都の鳥」としても有名。



ダイサギ (サギ科)

全長約90cm。日本で見られるシラサギの仲間最大級のサイズを誇る。首が非常に長いのが特徴。



キジ (キジ科)

全長約70cm。日本の国鳥。実は空を飛ぶより地上を走る方が得意。時速30キロ以上のスピードで走ることもある。



アカゲラ (キツツキ科)

全長約24cm。白、黒、赤のコントラストが非常に鮮やかな日本を代表する中型のキツツキ。

身近な自然に、翼の楽園

びん沼散歩PART I 野鳥たちの素顔



野鳥の宝庫 びん沼自然公園

びん沼川のほとりにあり、調節池としての機能を持つ2002年に開設された「びん沼自然公園」。その広さは9.8ha! 東京ドームが2個収まるほどの広さに豊かな自然が残り、野鳥の宝庫となっています。その野鳥の種類は約150種類。中には絶滅危惧種とされた鳥たちもいます。その鳥たちを一部ご紹介いたします。ぜひこれを機会にバードウォッチングに出かけてみませんか?

～スズメの仲間たち～



エナガ (エナガ科)

全長約14cm。その愛くるしい姿から「雪の妖精」として有名なシマエナガの仲間。とても社交的すばっこい。



ジョウビタキ (ヒタキ科)

全長約15cm。冬に日本にやってくる小柄な渡り鳥でお辞儀をしているような体勢で鳴く。



アオジ (ホオジロ科)

全長約16cm。準絶滅危惧種。用心深い性質で草むらの中などに身を潜めていることが多い。



シメ (アトリ科)

全長約19cm。桜などの硬い種子も割る事が出来る程の力強いくちばしを持つ冬の渡り鳥。



ホオジロ (ホオジロ科)

全長約17cm。頭部に特徴的な白と黒の縞模様があり、胸は茶色。頬や目の上の辺りが白いことから名が付けられた。



モズ (モズ科)

全長約20cm。鋭いくちばしを持ち「小さな猛禽」と呼ばれる肉食の鳥。自分と同じ位の大きさの獲物も捕食する。

今号は、春の訪れを感じるために私たちの身近な公園「びん沼自然公園」をお散歩してみました。そこで出会ったのが毎日公園を散歩しながら野鳥の写真を撮影しているという石塚利春さん。びん沼自然公園で見られる野鳥についてお話を伺い、貴重なお写真まで提供して頂きました。(担当/平塚嘉代子、北島由紀、吉川美佳)

写真協力：びん沼自然公園で出会って快くお写真を提供頂いた石塚利春さん、ありがとうございました!!

☆南畑公民館ホームページに掲載の南畑公民館だよりではカラーで鳥たちの写真をご覧いただけます。


